

理事長挨拶



学校法人国士館 理事長
大澤 英雄

おおさわ ひでお

1936年北海道生まれ。1960年国士館大学体育学部卒業

1960年本学に入職、1981年体育学部教授、1992年から2001年まで同学部学部長、2003年から2006年まで国士館大学学長

2006年本学名誉教授、学校法人国士館常任理事、2008年学校法人国士館副理事長を務め、2009年4月学校法人国士館理事長に就任

1992年から2004年まで財団法人日本サッカー協会理事・特任理事、1998年から2004年まで全日本大学サッカー連盟理事長、2004年から2006年まで全国体育系大学・学長学部長会会長、2008年全日本大学サッカー連盟顧問、2014年一般財団法人関東大学サッカー連盟会長、2015年からNPO法人日本サッカー指導者協会理事長

2009年全国体育スポーツ系大学協議会理事、2012年日本私立大学協会理事

2015年公益財団法人私立大学退職金財団監事

国士館は1917(大正6)年に私塾「国士館」として創立し、1958年に国士館大学を創設して以来、学園内外の皆様からの厚いご支援により、大学7学部・10研究科および中学校、高等学校を擁する総合学園として発展してまいりました。

「世のため、人のために尽くす人材」すなわち「国士」養成を旨とし、創立から100年を経て、表現方法は時代と共に変化を遂げてまいりましたが、その根底にあるのは「他への献身」という考え方です。これは、真心を持って人に尽くすことであり、本学創立者の柴田徳次郎先生が学生・生徒に対して深い愛情をもって教えるを説く姿から、当時学生であった私自身が学んだことであります。本学が教育理念とする四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」を掲げ、人材育成に取り組んだ創立者の思いを、現代のニーズに合わせて伝えていくことが、継承者である私たちの使命であると考えます。一世紀前に創立者が掲げた理念は、今も脈々と受け継がれており、その一例として2012年に設置した防災・救急救助総合研究所を中心に、防災拠点大学としての機能をさらに強化するとともに、学生・生徒への防災教育に力を入れています。

国士館は、本年創立100周年を迎えました。この大きな節目を迎えるにあたり、総合的な記念事業として、梅ヶ丘校舎の開設、メイプルセンチュリーホールおよびメイプルセンチュリーセンター多摩の開館といった教育施設の総合整備や、経営学部、救急システム研究科をはじめとする学部・研究科の新設、また本年度は文学部を専攻制から学科制に移行するなど、変革する時代のニーズにかなう教育・研究環境の整備を実施いたしました。2015年には創立100周年とその先を見据えた改革方針を検討し、「学校法人国士館中長期事業計画」として公表いたしました。今後も引き続き具体的な施策を着実に実現し、国士館はこれからも新たな歴史の創造に向けてまい進してまいります。

■ 創立100周年記念事業を推進 「国士館スポーツの殿堂」設置

2016年6月、メイプルセンチュリーホール1階に、オリンピックに出演したアスリートや指導者など、本学関係者の活躍をパネル展示で紹介し、感動を共有する場として「スポーツの殿堂」を設置しました。



文武両道を旨とする本学のブランドイメージ醸成を図るとともに、今後は自治体や各機関と連携してスポーツの魅力を発信し、東京五輪の大学連携協定校としての役割も果たしていきます。

「ドキュメントステーション」開設

ドキュメント環境を統合的に整備することにより、業務の効率化、学生への支援サービスの向上を図ることを目的に、2016年7月、世田谷キャンパス8号館1階に「ドキュメントステーション」を開設しました。

「メイプルセンチュリーセンター多摩」完成

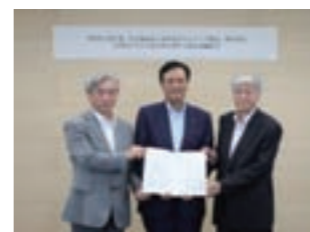
体育学部の教育研究及び福利厚生の一層の充実を図ることを目的に2016年9月「メイプルセンチュリーセンター多摩」が完成しました。地上3階建、延べ床面積は約2,157㎡で、教室・学生食堂・トレーニングルーム(スポーツパフォーマンスセンター)を備えています。

■ 法学部・文学部創設50周年

2016年に創設50周年を迎えた法学部と文学部が、それぞれ記念事業を実施しました。法学部は主に記念式典・シンポジウム、模擬裁判を開催し『国士館大学法学部開設50年史』を刊行、文学部は主に記念式典・シンポジウムを開催するとともに、『国士館大学文学部創設五十周年記念誌』を刊行しました。

■ 自治体との協定締結

2016年7月、世田谷区および社会福祉法人世田谷ボランティア協会と「災害時における協力等に関する協定書」を締結しました。発災時には本学の一部施設を「ボランティアマッチングセンター」の運営拠点とすることで同意するとともに、2008年に世田谷区と本学とで締結している協定の実施細目を現状に即した内容にあらためて再締結することで、防災拠点大学としての機能と地域社会とのつながりをより一層強化することとしました。



▲世田谷区

また、2016年11月に本学と多摩市は、東京五輪に向けた連携強化を図る目的で、「多摩市と国士館大学との東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組に関する連携協定」を締結しました。

2017年3月には埼玉県八潮市と、相互の発展と人材育成を図る目的で「国士館大学と埼玉県八潮市の包括的連携に関する協定」を締結し、「八潮市こども夢大学」や防災教育、スポーツ振興、インターンシップなどで、本学が持つ教育資源の活用と相互の人材育成のための各種支援事業を協働で取り組むこととしました。



▲多摩市



▲八潮市

■ 野津田校地を取得

本法人は課外活動の充実を図るため、グラウンド用地として町田市野津田(のづた)に約42,000㎡の土地を取得しました。主に国士館中・高校のグラウンドとして使用する予定です。開設に向けて整備を進めていきます。



■ 大学機関別認証評価で「大学評価基準に適合している」と認定

国士館大学は、2016年度に公益財団法人日本高等教育評価機構(JIHEE)が実施する大学機関別認証評価を受け、2017年3月7日付けで「同機構が定める大学評価基準に適合している」と認定されました。同機構より認定を受けるのは、2010年度に続き2回目となりました。総評において「建学の精神・理念に基づき、教育課程・教授方法及びその組織においても、適切に構成され運営されている」との評価を受けました。

■ 格付評価は昨年に続き「AA-」／「安定的」を取得

学校法人国士館は、2017年4月24日付けで株式会社日本格付研究所(JCR)より、年々厳しくなる環境の中で、昨年に引き続き長期発行体格付で「AA-(ダブルAマイナス)」の格付けを取得するとともに、格付けの見直しは「安定的」との結果を得ました。この「AA-」は、10等級ある格付けの上から2番目(AAレンジ)に位置し、「引き続き、底堅い基本金組入前当年度収支差額を確保できるとみている」と評価されています。

■ 国士館大学教育後援会が発足

大学と保護者との連携強化、会員相互の交流を通じて学生のさまざまな活動を支援することを目的に「国士館大学教育後援会」が発足されました。初年度は2016年度入学者3,257人の保護者が正会員となり、2019年度に完成年度を迎えます。